防災ラジオドラマ

グループ「碁石観光がんばろう会」

タイトル「カーナビゲーションシステム」

出演

女の声：カーナビゲイション(無機的なナビの音声風)

男の声：一般ドライバー(気仙なまりの普通の男の声)

女の声：私はカーナビゲーションの音声ガイドシステムです。

メーカーが私を売り出した時の謳い文句は、「防災判断情報システム搭載」です。

(車内のノイズが少しずつ聞こえてくる、エンジン音)

つまり、災害時に最良の判断が出来る機能をもっているのです。

男の声：あれ、揺れてるな・・・おお、凄い、揺れてる

女の声：地震です。情報を収集します。暫くお待ち下さい。

男の声：そうか、こいつ賢いんだったな。いや、まだ揺れてるぞ。

女の声：宮城沖が震源の震度7の地震です。この地域は津波浸水想定地域です。

すぐに、7メートル先の路側帯に車を停めて画面の矢印の方向に歩いて避難して下さい。

男の声：ばかばかしい。まだ買ったばかりの車だし、ローンも残っている。

ここが浸水想定区域だって？海から何キロ離れてると思ってるんだ？

車を置いて行くことなんて出来るものか。

女の声：更に予震を感知しました。危険です。速やかに車を止めて避難して下さい。

男の声：しつこいな～、お！(ブレーキ音・クラクション) あぶねえ～、

急に脇道から飛び出してきやがって。ばかやろう、こっちだってイライラしてるん

だ。

女の声：津波警報発令

男の声：あ、そう。だからここには来ないって。

女の声：6メートルの津波が来ます。

男の声：ここは、十メートルはあるから大丈夫だ。

女の声：速やかに車を置いて徒歩で高台に避難して下さい。

高台までは、ここから徒歩7分、駆け足で3分です。

(遠くから、クラクションの音や罵りあう声が聞こえている)

男の声：しつけえな～。おまえはたまに道間違えるだろう。大げさなんだよ。

(外の防災無線の声、サイレン、大津波警報です。津波の高さは１０メートル以上の予測です。速やかに高台に避難して下さい。身の安全を計って下さい。)

男の声：防災無線って、聞こえにくいな。

なに、十メートル？ここにも来るかもな・・・

おい、家の嫁や娘は大丈夫か？

女の声：暫くお待ち下さい。(短いデジタル音)

二人から、メッセージが来ています。

男の声：そうか、何だって？

女の声：既に高台に避難しました。

お父さんも早く逃げて。お願いだから。

男の声：そうか、大丈夫か。良かった。

しかし、混んでるな。こんな田舎なのにひどい渋滞だ。

(クラクションの音が耳元をかすめる)

何だよ、路側帯を走りやがって。マナーってものを知らないのか？

みんな、逃げたいのは同じなんだ。

お、路側帯にお年寄りや子ども達が歩いてる。

ひかれなきゃ良いけどな？

女性の声：大津波がやってきます。至急、車を離れ高台に避難して下さい。繰返します・・・

（外からの悲鳴）「ぎゃー」

男の声：あ、子どもがひかれた。1人か？2人か？

（声が震えて）

ひどい、ひどすぎる。

（ドアを開ける音）

大丈夫か？おい、しっかりしろ。

兎に角、車に乗せよう。

（少し遠くから「大丈夫ですか？」という見ず知らずの叫ぶ声）

はい、大丈夫です。

私が、病院に連れて行きますから。

（クラクション）

ばかやろう、路側帯を走るなって！

子どもや老人が避難してるんだ。それが目に入らないのか？

ふざけやがって！

浸水想定区域だったら、こう云うことを想定して車の入れない歩道を作っておかなきゃ。

ばあさんも早く誰かの車に乗せてもらえ、ひかれちまうから。

ばあさんの足じゃ、歩いて高台に登れないだろう。

（ドアを閉める音）

誰だよ、、（男の声が泣き声に変わって行く）

「津波てんでんこ」って言葉を作ったやつはどこのどいつだ？

自分のことばっかり考えてるやつがいるからこうやって、子どもの命まで・・・

おい、少年、しっかりしろ。

もう少しだからな。

早く進んでくれ。

女の声：津波到達予想時間は残り2分です。すぐ車を離れ、急いで避難して下さい。

男の声：おい、しっかりしろ。助けてやるからな。

女の声：(少し音声が歪んで)避難困難な状況に陥りました。

津波が来ます。

しっかり窓を閉めて下さい。

津波が来ます。

津波の衝撃に備えて下さい。

男の声：何だ？海の方からじゃなく、川の方から土ぼこりが。

車が葉っぱの様に流れているのが見える。

どこに進めば、どこに逃げれば良いんだ？

女の声：(途切れがちに) つな： み： が、が来ます。

しょうげ： きに備： えてく： ださい。

(とぎれとぎれの女の声が同じ台詞を繰り返している、男の台詞がかぶって)

男の声：おい少年、ごめんな。助けてやれそうも無いな。

おい、ナビ。お前は正しかった。

お前の言うことを聞いていれば。

(津波に飲まれて行く音。ギシギシとしたノイズ～、ぼこぼこと沈む音)

(しばし無音の間、デジタルのオルゴールの様な優しい音色の楽曲)

女の声：私を積んだ車は流されましたが、被災直後の会話を記録した

緊急レコーダーは破損を免れました。

海底で見つかったその装置は防災専門家にデータ解析されました。

それによって、自治体ごとに、路側帯の問題が提起され、

現在、「浸水想定地域」に歩道を設置中です。

（楽曲止まり）

私にも新しいシステムが加わりました。

それは、優しい声でただ危険をお教えするのではなく、

命を守る為に、ショックを与える様な、そんな機能です。